

Weekly Report of Inuyama



犬山ロータリークラブ

INUYAMA R.C.



国際ロータリー2019～2020年度テーマ

Rotary 第2760地区
犬山ロータリークラブ

■会長：山根 雄司
■幹事：加藤 浩一
■会報委員長：大島 匡博

事務所／〒484-0061 犬山市大字前原字橋爪山 1-4 犬山カンツリー倶楽部内
電話／0568-61-5219 F A X／0568-61-5523
U RL／<http://www.inuyama-rc.org/> e-mail／info@inuyama-rc.org
例会場／〒484-0061 犬山市大字前原字橋爪山 1-4 犬山カンツリー倶楽部
電話／0568-61.2281 毎週火曜日／12：30～13：30

第2815回 例会（R2.2.22 土 雨／曇り ☔）

【東尾張分区 I.M. 於：キャッスルプラザ】

新会員研修会（対象 入会3年未満 新会員）

11：00～ 研修会

12：30 閉会



インターシティ ミーティング

12：30～ 交流広場（名刺交換会）



14：15

点鐘

国歌「君が代」斉唱

ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

開会の言葉

箕輪 良孝 IM 実行委員長



本日は、天候の悪い中、ご出席いただきありがとうございます。新型コロナウイルスの件で、開催についても協議をいたしました。ホテル側も万全を尽くし、私たちも感染予防にできる限りの努力をするということで、開催させていただきました。今回変わりつつある社会情勢にロータリーも変わって行かなければならないとの思いで、新たな試みを実施し改革をしました。多々不行き届きの事があると思いますが、ロータリーの友情にてご寛容いただきたく存じます。

本日は、誠にありがとうございました。

歓迎の言葉

加藤 清久 ホストクラブ会長



東尾張分区 山田直樹ガバナー補佐主幹の下、2019-20年度のIMを開催致しましたところ、多数の会員の皆様のご参加をいただき、心より御礼を申し上げます。

インターシティミーティングは、元は、インターシティジェネラルフォーラム（都市連合フォーラム）と呼ばれておりました様に、それぞれのクラブを超えて分区という大きな枠でロータリアンが集い、親睦を深める中、ロータリーを考え、討論するまたとない場でございます。

そのテーマを「つながろう！我らの心と我らの町と！！」とさせて頂きました。どうか限られた時間ではありますが、メンバー相互の絆と、クラブと地域との深いつながりについて考え話し合う、実り多い時間にして頂ければ幸いです。

本日御参加頂きました皆様に重ねて感謝申し上げます。

来賓・特別出席者紹介並びに参加クラブ紹介

森井 晴生 分区幹事



主催者挨拶

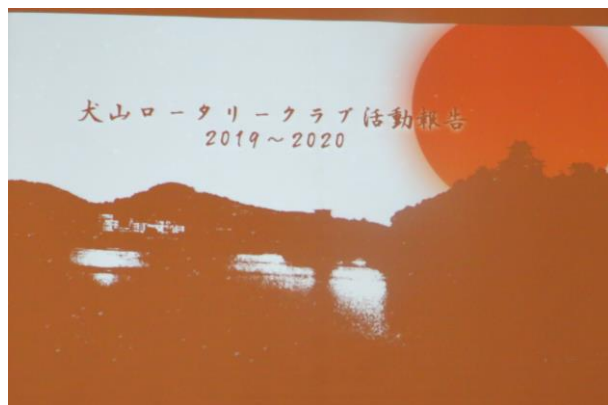
山田 直樹 ガバナー補佐



本日は東尾張分区 IM 大会にご参加いただき誠にありがとうございます。今回も全員登録をいただき 270 名のご出席予定で準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの問題で頭を悩ますことになりました。2月18日開催しました東尾張分区 12RC 会長幹事会にてご説明し、今回の IM 大会への参加不参加を各々のメンバーのご意思にて決めて頂くことで決行となりました。そういう中で本日これだけの数の皆様のご出席をいただき大変うれしく思っております。ホテル側も我々主催者側もマスク、消毒液の準備その他で万全を期す態勢で臨んでいます。

本日は友愛のひろばで懇親を深めていただき、入会 3 年未満のメンバーを対象とした新会員研修会（2760 地区研修委員会の早川委員長と古田副委員長のご尽力を賜っています）を行い、その後式典、各クラブの奉仕事業をビデオにてご紹介、宗次徳二氏（カレーハウス CoCo 壱番屋創業者）の講演を予定させていただき、研修を中心にして進めてまいります。最後まで共に学び明日からのロータリー活動に生かしていければと願っています。宜しくお願い致します。

各クラブ奉仕活動紹介



16:00~
基調講演

テーマ 『カレーなる私の人生』

講師：宗次 徳二様



17:20~ 来賓挨拶



次期東尾張分区ガバナー補佐紹介

次期東尾張分区ガバナー補佐挨拶

中林 正人 次期ガバナー補佐

次期ホストクラブ紹介

次期ホストクラブ挨拶

稲熊 正徳 次期ホストクラブ会長

開会の言葉

17:30 点 鐘





出席報告 出席率 100% (全員登録)

<< この記事は『[The Rotarian](#)』誌
2020 年 1 月号に掲載されたものです >>

体験記 : What it's like to...

◇未来の君主と会う

グレン・アダムス

研究グループ交換

昨年春、85 歳になられた日本の昭仁天皇（現上皇）が退位されたとき、40 年前に皇居で謁見したときの記憶がよみがえってきた。

1978 年 4 月、私はロータリーが派遣する 6 人の研究グループ交換に参加した。その後にフィラデルフィア地域にある私たちの地区に日本から代表団が派遣される予定になっていた。日本でのロータリーの地位は高く、

6 週間の滞在中、私たちは一流のもてなしを受けた：宿泊は四つ星ホテル、豪勢な食事、フロントフェンダーに小さな旗のついた黒いリムジンでの移動。農地や工場、東京の築地魚市場（当時は世界最大）、国会議事堂を見学した。昔ながらの船で江戸川下りをしたときには、そこで釣った魚をさばき、油で揚げた料理が昼食だった。最高裁判所では、判事が自分の法服を喜んで私たちに着させてくれた。相撲部屋では、ビールと魚 2 匹、ワカメ、ハマチの刺身、出汁、豆腐、餅、麺という典型的な力士の昼食をいただいた。

一番思い出深い遠足は、東京からの電車で始まった。集落や田園を走り抜け、山の近くまで来たところで、3 台の黒タクに分乗。陰しく曲がりくねった道を上った後、ケーブルカーに乗り換えて広大な杉の森を越え、青々とした芦ノ湖で下車。17 世紀の船を模した遊覧船で湖を渡った。翌朝の日の出時には、雪を冠した富士山の、息を飲むような情景にうっとりした。

当時はまだ皇太子だった昭仁殿下（父上であった昭和天皇はその後 11 年間君臨された）との謁見の謁見は、皇居内の松材パネルがほどこされた部屋で行われた。皇太子が入室されると、ロータリーのホストの方々が恭しくお辞儀をしたので、皇室マナーの速習講座のごとく、私たちもそれに倣った。昭仁殿下は無地のブルーグレイのスーツと白いシャツ、濃い色のネクタイ姿。英語は流暢だが言葉を慎重に選びながら、穏やかな口調でお話しになった。当時の私の日記にはこう書かれている。「私たちが年齢順に紹介されると、私たち一人ひとりの顔をまっすぐ、ひるまずに見据えられた」

私たちは、漆黒塗のテーブル 2 台の近くにあった赤い椅子に腰かけた。灰皿が 4 つ、皇室のマークの入ったマッチ箱、そして銀のトレイの上にたばこのケースが置かれていたが、謁見中に喫煙した人がいたかどうかは覚えていない。対話をしている間、召使いが菓子と緑茶をお盆で運んできたが、その度に皇太子殿下に直接顔を向けることなくお辞儀をした。日本の印象について殿下に尋ねられたので、日本人の礼儀正しさ、東京の清潔さ、見学した歴史スポット、食した日本食について話した。日記にはこう記されている。「皇太子は、終始ほとんど表情を変えることがなかった」

私たちがフィラデルフィアから来たことをご存知だった皇太子殿下は、自身が 19 歳だった 1953 年にフィラデルフィアを訪問された時の思い出話をしてくださった。日本人にとっての主な懸念は何だと思われるかと私が尋ねると、伝統、歴史、文化を保存しつつ、それを現代のトレンドやテクノロジーと結びつけることだとお答えになられた。

互いの幸運を祈り、さらにお辞儀をした後で、謁見は終了した。この対話にテーマがあったとしたら、それは現代において古来の慣習を維持すること、つまり、昭仁上皇が繰り返しお使いになった「調和」という言葉がふさわしいだろう。